

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属泉北幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にした教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上をめざすとともに、地域の幼稚園としての役割と使命を持つ。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②特色ある教育活動を展開し、園児数の確保、魅力ある幼稚園としての位置づけを高めていく。
 - ③研修への参加や年度末に自己評価をおこなうなど、教員の資質の向上を目指す。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における安全対策、感染症対策の徹底
 - ③園児や保護者、地域の方向けの講習会の開催
- 3 地域の子育て支援拠点の充実と園児募集に向けた取り組み
 - ①おやこ教室の積極的PRに努め、園庭開放に来た保護者への相談や支援を積極的に行う。
 - ②子育て支援の拠点として、地域との連携に努める。
 - ③園内外に向け、幼稚園の魅力を広く発信していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	毎日子どもたちの様子や出来事、保育の進め方などを話し合い、日々の記録をもとに内容を見直して、保育の資質向上に努めた。
②特色ある教育活動の展開	A	iPad 教室など現代の教育ニーズに応じた取り組みを進めた。自然豊かな環境を生かした遊びや環境づくりを行なった。
③研修や自己評価による教員の資質向上	A	園外研修への参加や、附属 4 園ごとの研究発表等、学びの機会を多く作った。また、年度末に自己評価を行い、保育を振ることができた。
2 ①園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施している。また、保育中に体調の変化が見られた時には、保護者に連絡したり、降園時に伝えたりしている。
②感染症対策・安全対策	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの2類から5類への移行に合わせた対応 ・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいす等の消毒 ・遊具の安全点検 ・常駐警備員の配置と防犯カメラの設置 ・車門ネットの設置
③講習会の開催	A	警察や地域の方による「交通安全指導」、園医による保護者向けの「歯科講習会」を行い、安全・健康管理対策に努めた。
3 ①子育て支援	A	園庭や保育室開放、未就園児向けおやこ教室を開催し、参加者と園児、保育者との交流を行った。近隣施設に案内の配布やHPへの掲載で周知を行い、参加しやすいよう申し込みQRコードを作成した。
②地域との連携	A	堺市主催の絵画イベントや御池台地区の「ぬりえ」、「地域ふれあい花咲活動」やイベントの製作物展示などに積極的に参加した。
③園児募集に向けた取り組み	B	Instagramの開設や地域イベントへの参加により、幼稚園の魅力を伝える機会を積極的に持った。保護者アンケートを実施した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、教員の「学び」の機会を多く持つことができた。 ・新型コロナウイルス2類から5類への移行になる中、健康観察、感染症対策に努めた。 ・登降園時に園児の様子を直接保護者に伝え、安心につながるよう努めた。 ・自然豊かな環境を生かし、食育や園庭づくりに園児と各家庭・職員が一緒に取り組めた。 ・クラスだよりやHPで行事や園生活の様子を知らせたりするようにした。 ・Instagramを開設するなど、周知活動を積極的に行ってきた。 ・保護者アンケートの貴重な意見を参考に、園児増加にむけた新たな目標をたてていく。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練により、緊急時における対処方法を教職員全員がさらに実施できるよう、共通認識を持つ努力をする。AEDの講習を教員全員で受けたが、今後も定期的に確認する。園全体の環境整備・安全点検をしっかりと行なう。
園のPRと園児数の確保	インスタグラムやHPなどで、あらゆるPRや啓発活動を行い、本園の良さを広める努力をさらに積極的に行う。未就園児教室や園庭・保育室開放・見学会など開催を積極的に行い、園に足を運びやすい環境を引き続き整えていく。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 色々なことへの興味を持つ時期に、お茶のおけいこや柔道、iPad 教室があり、大阪芸術大学附属ということ で絵を描く機会が多く、専門性豊かな特色ある活動を楽しんでいたという声は嬉しい。
- 全職員で全園児を見ているということはとても大事なことで、保護者の満足度に繋がっていくと思う。
- 野菜の栽培を盛んに行い、持ち帰った野菜を食べる楽しみがあり、どんな料理をしたかなど、先生と子ども達、保護者の方と話す良い機会になる。
- 以前あった課外活動では子どもの成長を感じられ、保護者と共感できたので良かった。
- 園児が少なく、小学生になった時に友だちが少ないので心配との声も聞くが、幼稚園で先生方が子どもを褒めてくれるので、自己肯定感が高く、小学校でも全く心配なくマイペースに安心して過ごすことができている。
- 異年齢で過ごす中で、プラスに育つところを大切にしていって欲しい。
- 共働きの世帯が多いので、働きながら通うことができる園を選ぶ傾向にあるのが事実ではないかと思う。
- 送迎時に保護者の方と先生がよく話し、子どもの姿を共有して過ごすことができている。
- インスタグラムは丁寧に保育していることが伝えられ、信頼に繋がると思うので、是非続けて欲しい。

7. 公開保育について

実施日時	令和5年11月21日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属泉北幼稚園 保育室
保育者	あやめ組（年中）担当教諭
テーマ	リズム遊びを通して友だちと一緒に表現遊びを楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科 教授
参加者	狭山市教育委員会、大阪府小学校・幼稚園園長、副園長、主任、教諭、保護者
総評	体を動かしながら心も開いていく、とても素晴らしい保育でした。笑顔が見られ、友だちと顔を合わせて一緒に体を動かす楽しさを感じていました。リズムを上手にとって、体からリズムが感じられました。どうしたら子どもたちが自分で考え、楽しんで取り組めるのかをしっかりと考え、工夫していると思います。1時間という長い時間でしたが、子どもたちは飽きることなく楽しんでいました。最後までやり抜く『粘り強さ』、自分の感情を『コントロールする力』、気持ちを『伝え、受け入れる力』などの能力が身につくような仕掛けがたくさんありました。子どもたちへの愛情がいっぱいで、丁寧な保育をされています。できないではなく、一緒にやったことを喜び合うなど社会生活との関わりにも繋がっており、工夫がちりばめられた素晴らしい保育だったと思います。